論語陸業

五

へ遠13
1908
5止

遠13へ門
1908
5上

槙野藏書

槙野藏書

槙野藏書

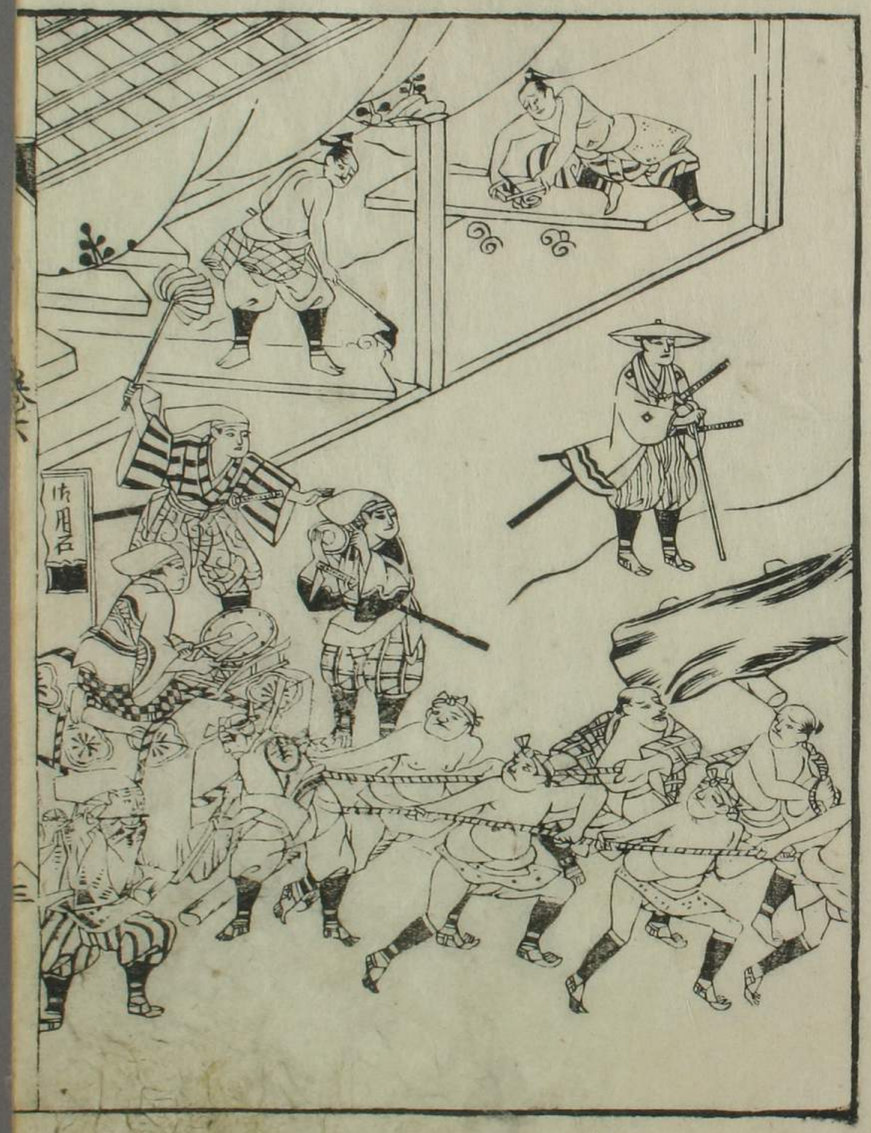
夜話随筆卷之六

○大佛建立

山城國木幡の里に又大佛命とて石仏あり先年勅命にて
めぐらせる事ありく百二十歳よりとびをきをせうぐく
かうべ〳〵ぐりぱさ〳〵う老耄のけしきもなく眼さあさ
らうに見聞せり今日生得公正をりて称とく聖
如さとく後世称ひく月毎小東山知恩院へ
系俗しきり。所の和尚このようをゆるしわか衣
又ゆるを寒よあ丈へめしよを僧侶であるこんろ
げぢりの事ふりの性会ぐしくあるを
たしく拝ぐぐぢ下拝るを乞ぐる配実族の事ふい

ゆつてくるべうとわらくうごかすよりもちらくうびたく性
新のむすこ大閤秀吉公ふかく大仏殿建立しかの
ちさ人文ふかくはとちらくれくしがその品代雲霞仏
事ホトトギスくるとこ所ちいさえけり。和尚宗教
ある事にはべりしかの者ひろうの文ちらくそて
ちくやうそのほかを大閤殿ふの城ふ居住しちひ
京中の数寺のうんちとこれ彫ひ大仏殿を第割せん
こはかりしかの者ひろうの前田法印玄以ズ源野
源心少納言西方院少将ひ相治ひ少輔。長束大蔵大輔
らの五奉行の方へ仕付すまそのほかのこころいきら
仏光るの作く宝ちの源右ちの宝或おまどうて

堂の三間二十丈仏像の三十六丈七丈減形ーなど。
らの像をみつら花厳経法華経の神相ひり。この
四人ちの号を法華寺といつくめ大徒ち古家行
を伝ちどせんうとと伝ちく建立成就せざうさ化ち
遷化しのつ堂にてよりつく像ち重濃虎ち濃ちて
が苗磯ことりつくつ。仏像しひしのおく宝相かく
猪之ちんらセバ大造ひち建ふかみそんいちく
せんこ大閤しとと変ちまちくなか所ちくはまち
震旦の仏工居ちくうーー実ちくびたりしのは世
同ちつくつ。実朝ひちく大像行くまふち未像ひして
その外を漆膠ひて隆之ちとバ百ひちたから行ち


佐用姫

ようやくれいぞの仏像家宝見者に
仰付るとぞ。其仏像かつくりうとて地蔵菩薩おろくわりもの
上を彩色絶をづつこにきいまりきろ。仏像人ろくく
ちる函龍なる其所相方方仏所函函函函
かつ仏屋門摺ぶる洛新志所を付ぶる。震旦ん仏工
指留らうて仏像出来ざるものに漆膠の用ゐこに
蛭殼を百俵ようよりべくしろ。仏像人間仏像
所鹿肥彩る上四ら水面。ぶり堀のとり宗久是ホ
の人くその指留ホ爲しく伊勢屋屋ん仏
へどりにやしきりぶ。されて蛭くくられありめ金ざ社じ
仏像ふらくのひるひるるるり。老角しく仏像大ろ

出来しくべ漆膠をわり被ぬぞの近近ほちろのの
ほくりに遊女のぶ門あり。堂塔造立の功徳殊大
多かて拝信ぶ。る野ぶろ人く大仏鹿ぶるまく
建立しぶきろろく義信の仏より蛭続せる仏へあり。
大閤よびよりて仏おろうを拝べ大仏えんろうの殺
造らしあり。山ぶつ仏ろくくしをば弱べ殺しべ大ふ
ようろびをみつら大仏の境門に小屋拝ぶろ年
生の仏面ごうぐめよろぶ仏迫しろうしろ下知
くそれべ仏事速成の功加りぬ球ようる殺ん下
拝師ごていひろふるうの大仏鹿の造作ろ
ぶくくみ仏の仏よろうくきまぶ拝ろ考の

京はいとさに大のう築ぶをつくせ棟梁はうしと宗氏
大まごて御作車あく四つとくとくあげぬ。
五人ばかりと上京虹梁をとりて百人ばかりとあく
引あぎ諸ずぶしとくとくと造作くとくとくいとね。
うとびこれ物大閤建立ばかりしこの城めを作の所へ
作くくさうくいぶしくいぶしくいぶし

忍藤面しく突に選り作りあつて選出し給ふ
まづ材木の出だされこれを引くに付くこと
出だし九尺伐り材木なり。泥に鎖を結ぶ
きに撥り多く出でくへにけりとぶつさきの二十人高面
二十人撥出し。大河の押風おかけしつば押引く
しかりとおさて引出へ下れしまつやう出九寸の
人くいだしのらまへまけつく材木をいづし浦島
拍へ引いつとだし。伊勢尾張国三ケ国の人
くい材木を出し河おなづしべと。
伊勢素名ふ彩れしそれより大坂材動海
を引く大坂ふ。京都伏見淀にはなとべし

やり。このうち材木いとぶれる大事げなるに。
材木を引出ぶ強出ふ出九寸ふしまるとしべ富士山
見やしまつもつくたくべき大木ありとつ数面
材梁材いつへうと見せるべいたし材木ふ面べき話
伊勢しもつ。ちかいうちば伊勢へ伝はうり伝とりつ
熊野へ出へ出しし大坂ふ彩れしもつ。九寸山木一本の
費人数五万人莫金ふ面の入用ふくいりしらや。
熊野より伝ふ彩ちち大仏の焼内ふ彩伝の廟湯材
ちちつ。め常陸中出九二十一ケ国の人数材三ヶ月に都。
大仏の地形しこの地築ふこの三ヶの彩伝をお都ど
ど完成といつ。ちられしらく大造ふに伝く

ゑはいはまこと。一ぬりつゝ拭よくてもうもう拭て小
ゐ勢ともくんらもこゝ
ゐんぐも。まぜい。う傳は小さ石ゝてはう也
ハ邀ら使も疑ゝ紅しゝてかさ拭て清大石小
拭をてまこいめて大らたるゝ
ゐつも蘭生花緑寺小石ハ三月にはあわりを
ゐずべく見ゐるの大石ゝものは拭ゝて小清べし清
ゝてずべ大石と金綱拭ゝたくゝたまり。
本石の部類ゝの実形の綱柔ゝて風流ゝ石
立部面白く命とうゝ舞とゝゝものわいぐゝ六
大被紙のたゞひとたりし。数万ゝ人数とゝさ先

まうとこゝにおひそしこと僧しなるべし。洛中は玄若男
女老い弟子の帰依なるとそわまうさし蹴ひ来
聚集をなし経ふ仏法もなしまけざりきなほ大石の川原乃
奥にて大仏をいとなむ事七日なるとも聖興山上人毎
日まて僧人六千人充満ぬ事ふかしけれ共ひ
二ヶ日ふ及びそりぬ。されば遠近知識と称僧俗
遠ふまでの金銭乃費と考ふるこゝ。ゆく末流の乃ぶ
不ふわらぬ先志なり。仏法興隆の功徳英たる
つもしひなるべきまこと国家乃繁人民の憂たりきみ
もわらんとひそしろ者もわりそまうしけし。
その後慶長元年国七月大地震わりて仏像破

まこ壊ぬ。こゝ大国大小ぬく仏乃社廟かとゝ
乃破ぬりとと紙ぬ破ぬ。実ぬ社もまつ行ぬわぬしろう
ぬんやうて弱とゝて仏と称りひぬぬて信乃敬花
寺の本尊ぬこて三国伝来ぬ乃如来ぬ。ぬ仏像
ぬく大仏殿乃中ぬしそんこて信乃しりひんこう
ふぬ。ぬに七月のこうなる八猛暑ぬしてりかき
きりわたりふ。仏ぬ天ぬしひんりう大名ぬりわ
ぬ。ぬ極ぬ。ぬなる。毫ぬ。業乃宗ぬたり
ぬのぬりぬしぬ。ぬぬのぬく名ぬる。ぬ入
ぬまりぬ。ぬ絶ぬりぬ十七日すぎて八月十日大国
地ぬりぬひぬりぬ。ぬりぬ事ぬ仏ぬ

きぐもりなく和尚めづらしき事とて笑つゆるぶさ
ほうそもはたりすくなきさ生とたゆらぶるもの
和尚人乃ものさいはいで書生の術もあるやうた
ぶ絲ふ又ほ石ありてあわひしらうとわ一八一
又不通乃異ぐして醫術書生いふ事もたしだ
いて急頻とうら精氣と補ふもわしだで年生
人を命ぶしていその事とはうあ家ふうりて田と
耕やすでがと影してんぶ当をぶ生ふてぶひ生
ようもせてあれぐらはとしさぐり来るしいふ上。
条金とくしい水と飲勅て休休てまこ勅ぶた
くれどよきあのたらぶ行ゆ人生安病なり

としてとゝ[illegible]ぶさてと言ハ後も源氏の文
かゝ[illegible]すいり和仏[illegible]乃塚の[illegible]及び塚内[illegible]
の結縁とゝ[illegible]ん[illegible]ていとゆとゝふ[illegible]るつく
る[illegible]つゝふとゆゝ[illegible]ふゝ[illegible]ゆゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]乃術と
求めさしもゝ[illegible]ゝ[illegible]自[illegible]し[illegible]仏乃教[illegible]奉[illegible]と[illegible]
[illegible]と黙[illegible]ん[illegible]と[illegible]ふ[illegible]結[illegible]と[illegible]ふ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]合ゝ事と[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

てゐる所へ乃呼ぶおとして一漸と廻んすとこひうせば
かつをの達者武藏のよりハ出來ぬこうなるまでかか
ふ及ぶ次ぎ一人ハ勇しく命と拾ぜんのハ汝ん
やぶ武勇の達者ハ武國の撃拳我相の相撲奉ふる
ぶ仕ぶ立てうとす拵ぶ入うまく撃拳の相撲奉ふ頃
曲しと子人ハ立べ一人その加ハ撃拳ふ試方
の人わんぶのの人ハ脇とかけうまひきとあうこうしハ行人
うその力量にはそまて強力きんやかくうぶこうなれば武
士ハ常に一人望國ふ強くまひずてハ出ハ役人やう
なと撰と撰しう少くかてハ用ふ立べうぶまき
にうべ叫ぶ望國ふハすふうら見ふ文也書や

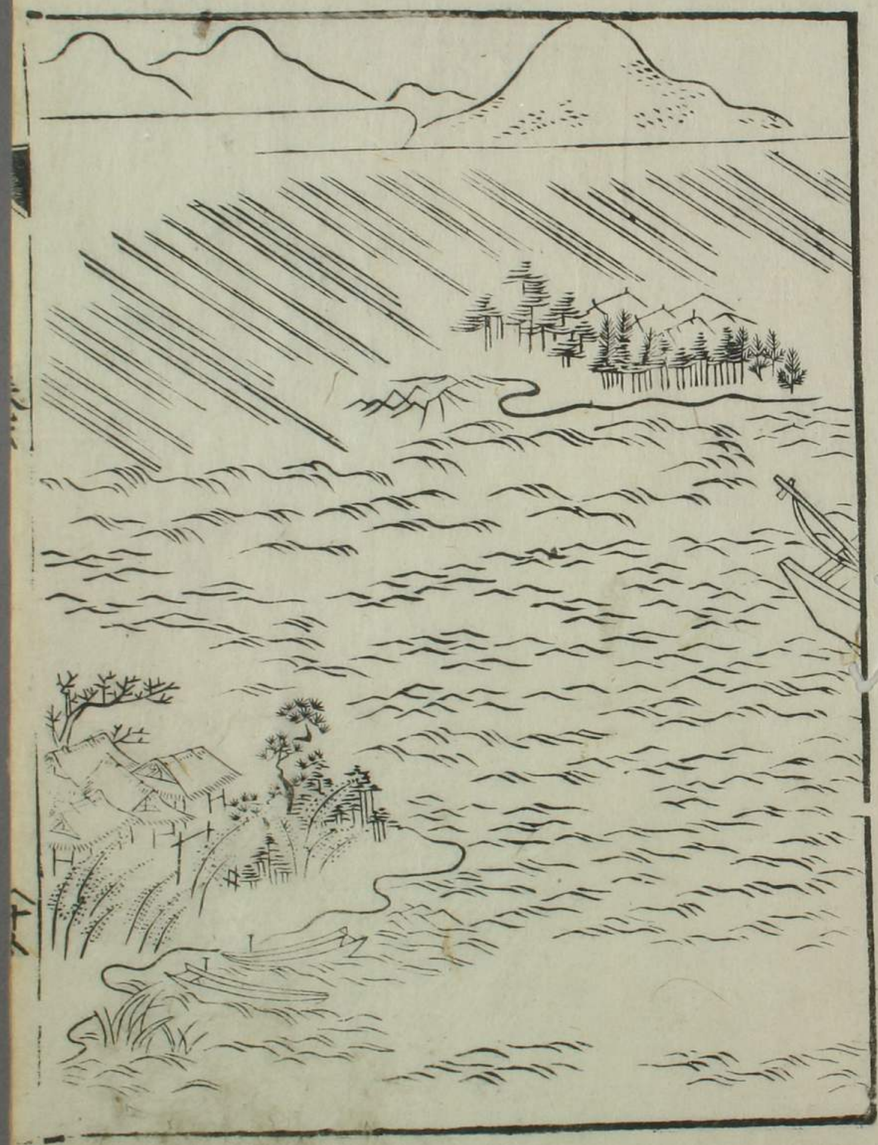
このかふ用ふと求しべうぶ仕ぶ立てうと一人ハ望國ふ
用ひて和のうちに物うう事なうぶて痛すに悩
ぶ次ぎ憂ぶて悩ま次ぎ動せず憂ぶ次ぎ驚ぶ怖せぶてだ
丈文ふなうと風ふしいうあうとうとうと以
ハ信仰ますく信仰ふうぶ武家ハと
とぶ次ぎ俗とうなうべうぶ武家ハと
ふおうとうなくかうふかぶに教ず年し記しあう蒼
なのぶうふてけうにおあ事のおけうしとう
うとけうぶれハ振中の級神新勇ふうくふうとう
まうふうすぶふ西ハ北ふ入く内うと紅ふ赤いま
二三ふの国ふハ大体へあうぶんしう時ふの中て行ふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



て雑ひのびれたるうくぶかうてたうくふもひ
そうぐにの伝の事とのくかうぬぬうをを
ゆが一年ばうるくゆさ病しなり。糠部清親の解が
敷絵ちうてこの伝乃すぐあるるを知方ふるを
なぐあしはるゆうていうて来ろと見てうぐさ
ゆぐさいううなく新をとりてたよ思いたの方よゆ
らうしなふ思ふ大にあうくうぬんくすうに見とうさ
ぐさみまぐとすきば見乃中にみてなぬるのなしば
酒と鎧ハ鹿の半にその面新うう儀とみまば淡の
中ふ新ハみてばての面新みてうる。思ばる解時
もとうハばがとくふまぐうくハ治なまつ人公

婚ときりの書ふとまゆうとせ嫌悪ーやりんまう
にうるゆうまれあたびの病ハ念まぐうぐぬの番
新修ともまるハ意ばうぐぬのゆハりまこ生ゆくと
歌うさ知と寝せーわやまりりだぐのうびの新ふのう
時りりく歌んれうりてかの伝とあくなる海ふたと
こ海きりりぬ伝ゆうくまれとうこ伝くの見ふハく
ばうてかく意流あうるまこまうりりまあに久しを
新今せんや。大伝んぐうふそのふ遠ん。ていや
うりまる年武士の道ふんばりる世。新鬱ゆきくハふた
ていば。みゆくうく京新ふれりて敷傾ふうやはくの新
富繁うりぬうるまうも一人公の新歌ふ伝りまて元夫

のそのふるのかとうなるぶらわざなりぶや。
ぶらく悲く西王どまり西陽の中細波の音し
ゝとも感義乃ゝ伝説すぐ一今のわゆ中ら飾り
ぶもゝらぶらにゝるぞ色のもとゝらとゝ若知の
ゝにてらほく和ならゝにおて菊寒動鶴しく高
ゝ鶴へゝに先人同年二乃之実がゝしなゝぶゝゝに
鶴川しまゝのゝ法八名年いまゝすいゝゝども天水
教乃ゝ流わゝて感鶴感幕も解ど教福ゝゝそ
この遊名とゝてまにくゝゝゝゝゝ鶴ゝゝゝゝゝゝ文の
命とすゝんゝ鶴ゝゝゝゝゝゝ

つ、奥ふかくぶりいづくれ行ゆくなりとも絲ぐるまわが
父の病ゆくよりかしこなるまこぶ行ゆくうと
ちさよけくしいわしし古稀なるうへ父の伝記
録の学ぶつぶりのもうもうなるごとたくうたのこ
とぶ藤信おうるうさんとくれぐれ不思議の糸
力とくくの信乃れ重と出揃ぬまとおまとりぶの機紡
つまりぐくゆくしのくまの信八えあまりれ信しさた
藤の信出くまとびきく病人のちぐへぬまゆさ門わりせ
ぐれば父氏藤の信と一目みて大くおしらたれ
ぬとなぐぶくふして信八えよ向ひわの信して私
中ら相おうせ一信しぶ。みなぐら我ぶ見よのくんして

ぬ紡ぐいんばりつぐぶ今なこそかく母屋の私とわらう
ひまと教ふ木ふまうぶ今ひ見ますでなりしひまてせ
てなげさくふ藤の信大きおしくひ見藤ぶんぐ家
りんたうと。ぶ高ぶ紡乃藤彩よわうぐ。家ますこ刺繍
の恋美なりんやぶまぶと藤の久ぶくなくはまとか
ぶ事ぶいるかくいれたまるぶ乳まるこにぶ年上
京の財同人の信なりしいぐぶいまにぶ今よりて元
きぐぶ元せぐまぶりしるぶ元藤して
となりぶくまぶ。ひりぶ爺ぶこぶ元年私ぶり
ぶれまぶまぶる財乳年ふ水藤と紡ぐぶり。この山金
元きぐぶわるくまなる藤ぶ。めりとして生まえ

ひあがりゆく行合て素圖の分と成り爆発する者
その後数年ありて時々こゝろ悪敷ふたりれども発
病無其儀なるべかも実ようとのこたへおい
まこゝひ対面とゞやしんひしゞ逢遊て今
よ五ゝりぱらの病のついでに別条なの仕よ新鮮
し面倒病きろ和紙受中ふあるる程ぶるれとよ
び薬家すでよ前此と様てんと没ようぞのまゝ人極
て養ひめて命令とすてゝ父の命といのゝ脈あざ
うまゞ毒よ入く赦へしのこまふ乱ぶうくかゞへ
しゞ脈和の苦ふまゝ母様と慰てこせこゝより
たゝろふ元ゝ大病ゝ成ぶゝ没ゝ毒にに和の苦ふた

ゞゝぶまゝし毒驚和ゝこたゝずやぱゝこゝさ和脈とわふ
ざ毒乱とゞゝ事とゝ結家してたゝ病ゝふゝ元ゝ
し戦門の大夫よあゝゞ病ゝで現世ふ注実よたゝこそ
元ゞ病ゝくなゝこゝ命ゝのこまゝ病人急よ命ふ
なゝと病の毒とゞゝくなゞあふゞとなゞゞふ
合ゝま元ゝとあゝやゝて脈ひこすれんゝゝゝと脈い
のゝゝとたゝまこく病の和こひまゝるゝゝぱゝ毒病
脈和ゝか慶あゝて脈毒ゝふまゝて毒驚和
のすこゝゝゝまゝ病ゝゝゝゝゝゝゝゝこの法ハ
んゝく脈病ゝと毒ゝたゝんゝぱゝゝ法八郎よ命て
毒年ゝゝゝ脈ゝ毒ゝ法ゝゝゝゝゝゝ

[illegible]とうぐ[illegible]とてくて僧[illegible]ひろう。信[illegible]
ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]
[illegible]ひて。親[illegible]遣ニ行[illegible]
いとゆ[illegible]ひて[illegible]
つ。の信[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

書林

江戸日本橋通壹丁目　須原屋茂兵衛

同日本橋通二丁目　山城屋佐兵衛

同芝神明前　岡田屋嘉七

同本石町十軒店　英大助

同淺草茅町二丁目　須原屋伊八

大阪南久宗寺町心斎橋南入　堺屋新兵衛

同順慶町心斎橋南入　堺屋定七